関西・中四国支部活動の現状と課題

○北村寿宏（島根大学），河崎昌之（和歌山大学），藤原貴典（岡山大学），石塚悟史（高知大学），
李 鎔璟（山口大学），永冨太一（香川大学），大井文香（徳島大学），稲岡美恵子（京都工芸繊維大学）

１．はじめに

関西・中四国支部は，本学会の支部の一つとして，平成 21 年 12 月に設立された．本支部では，産学連携学会の会員を中心に支部のエリア内の産学連携関係者の相互の連携を促進することを大きな目的に活動を行っている．今回は，当支部の活動の現状と課題について報告する．

２．支部の概要

関西・中四国支部は，関西，中国，四国地方を一つのエリアとして，そこで活動する産学連携従事者などの相互の連携を促進し，「地域の繋がり」を強めることを目的に，情報交換を行い，産学連携活動を効果的に進められるよう，平成 21 年 12 月に設立総会を経て発足した．

関西，中国，四国地方を一つのエリアとしたのは，岡山を中心とすると，比較的交通の便が良く，およそ２時間半（150 分）の移動時間でカバーできる範囲であり相互の交流が容易であろうと考えられたからである．支部のホームページ[1)]やメールアドレスに「150」という数字があるのは上記の理由によるものである．

平成 24 年３月時点での支部エリア内の会員数（支部の構成員）は，個人会員：65，学生会員：２，団体会員：７の合計 74 である．支部活動には産学連携学会会員以外でも参加できるよう，「準構成員」を設けている．支部の活動を通して，産学連携や学会そのものに興味を持って頂き，学会への入会を促進することを狙っている．現在，準構成員は６名である．

支部の主な活動は，研究・事例発表会の開催，メールニュースの配信やホームページによる情報提供である．メールニュースは，構成員，準構成員のほか，研究事例発表会に参加された方々にも送っている．このほかに支部の運営を円滑に行うために数名の幹事を置き，幹事会やメーリングリストなどを活用し支部の運営のほか産学連携に関する様々な議論を行っている．

図１　研究・事例発表会の様子

３．支部の活動概要

３．１　研究・事例発表会

１）開催概要

支部の大きな活動の一つとして，研究・事例発表会がある．これは関係者が集まり議論・交流する場を作ると言う観点から企画された．従って，人が集い情報交換や議論できる機会を提供する，と言うことを最大の目的に実施している．この目的を達成するためのコンセプトは，

①研究成果だけでなく産学連携の様々な事例を発表できること，

②発表会だけでなく情報交換会をセットで行うこと（図１，２を参照），

③低コストで発表会を実施すること，

などである．

図２　情報交換会の様子

平成 21，22，23 年とこれまでに３回の発表会を実施してきた．参加者数，発表件数の推移を見てみる．発表件数は，第１回 15 件，第２回 16

表１　研究・事例発表会参加者数推移

	合計	エリア内（内開催地）	エリア外	学会員	非会員	大学関係
第１回	42	36 (18)	6	13	29	30
第２回	35	30 (10)	5	21	14	24
第３回	48	40 (15)	7	18	30	32

件，第３回 18 件と増加傾向にある．支部エリアの外からの発表も第１回から第３回にかけて，１⇒１⇒３と増加した．参加者数の推移，及び，その内訳を表１に示した．参加者は，35～45 名程度で推移していることが分かる．それぞれ企画時の想定に概ね見合った人数である．特に，開催地からの参加や発表，非会員の参加が多く，産学連携学会を地域に広める良い機会となっていることが伺える．また，支部のエリア外からの参加，発表に関し，それぞれが所属するエリア毎での，同種発表会の実施に対する要望が聞かれた．このことから，大会とは別に気軽に発表できる機会のニーズがあることが推察される．

２）開催の工夫

このような発表会を実施するにあたり費用が発生する主な項目として，予稿集の印刷，連絡用の通信費，会場費がある．低コストで発表会を行うために，いくつかの工夫を行っている．

予稿集であるが，第１回，第２回は支部の事務局側で印刷し発表会の当日に配布していたが，第３回では予稿集の印刷･配布を止め，ホームページに掲載し各自印刷して持参することとした．これにより，予稿集の印刷費用が不要となるだけでなく，事前に予稿集を掲載することで内容に興味のある方の参加を促すことが期待できる．当初から予稿集のホームページでの配布を想定しており，第１，２回もホームページで予稿集を掲載し準備を進めていたこともあり，予稿集の印刷配布を止めたことでの混乱は全くなく参加者からの不満も無かった．

連絡用の通信はすべてメールで行うこととした．また，開催案内の印刷・郵送は行わず，ホームページでの掲載を行い，産学連携などのイベントで案内チラシを配布する程度にとどめた．

会場は，公共施設や大学の施設を利用することで経費の削減に努めた．

また，情報交換会もアトラクションなどは止め１時間半程度と時間を少し短く設定して経費を抑え，参加費を安くし多くの方に参加しやすくした．結果として，発表会参加者の７割以上の方が情報交換会にも参加している．

３．２　その他の活動

１）メールニュースの配信：支部の構成員向けにメールニュースを発行し，産学連携学会を中心とした産学連携のニュースを配信している．

２）ホームページでの情報提供：支部のホームページを開設し，適宜情報提供を行っている．

３）幹事会の実施：支部の運営のための幹事会を実施している．また，幹事会の機会を利用し産学連携の勉強会を行い，問題の共有や情報交換を促進している．

４．今後の課題

支部の活動を行うことで産学連携学会への入会を促進することも一つの狙いであるが，会員数の変化を見る限り支部活動の顕著な効果があったとは言い難い．平成 20 年 4 月と平成 24 年 3 月時点の会員について比較した．個人会員については，学会全体では 187 人から 250 人に増加し，支部エリアでは 50 人から 65 人への増加である．増加割合としては大きな差異は認められない．今後，支部発表会などへの参加者から産学連携学会への入会を促進する手段を講じる必要がある．

発表会の参加状況をみると，支部エリアの会員の発表会への参加割合は 27%程度であり，会員にとっても魅力的な発表会になるように工夫していく必要がある．

当該支部の活動の中心は研究・事例発表会であるが，相互交流の促進や会員の勧誘などをめざし，他の活動にも広げるなど工夫が必要であると考えられる．また，他地域においても研究・事例発表会のような発表の機会のニーズがあり，各地域の支部との連携も必要と考えられる．

５．まとめ

関西・中四国支部について，設立の経緯と活動の概要を報告した．支部の活動の中心となっている研究・事例発表会について，コンセプト，実施方法，工夫点などを紹介しその効果について検討した．支部の活動は始まったばかりであるが，地理的に近い会員や産学連携者の交流を促進する役割は大きい．今後，さらなる工夫を行い継続的に活動していくことが必要である．

【参考文献】

1) 産学連携学会 関西・中四国支部ホームページ：http://www.sgrk.shimane-u.ac.jp/j-sip-B150/

（連絡先：北村寿宏　島根大学産学連携センター　crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp　tel : 0852-60-2290）